

登米市佐沼病院、小児科入院5月に休止 東北大応援医師が減員

登米市佐沼病院(宮城県登米市迫町)の小児科が5月をめぐりに入院患者の受け入れを休止する見通しであることが15日分かった。産婦人科も2人いる常勤医師の1人が3月末で転出するのに伴い、体制を縮小する。同日開会した2月定例会市議会で布施孝尚市長が明らかにした。

小児科の入院休止は、東北大の応援を受けている医師の減員が理由。登米市で入院が可能な小児科は事実上、佐沼病院に限られている。夜間や休日に小児科医が不在となると、急患の受け入れが困難になるほか、症状などに応じて役割分担してきた開業医との連携にも大きく影響しそうだ。

市や東北大によると、佐沼病院の小児科には現在、常勤医1人に加え、東北大の医師8人が3、4日ずつ泊まり込みで応援に来ている。しかし、このうち3人が研究などの理由で医局を離れることになり、現行体制の継続が不可能になった。

産婦人科は体制の縮小に伴い、地元を離れた母親が一時帰省する「里帰り出産」の受け入れを休止。小児科医が不在の時間が生じるのを受け、多胎などのハイリスク患者には十分な体制の整った病院を紹介する。

布施市長は「あらゆる方面から手を尽くして医師の確保を図り、極力現在の体制が継続できるよう努力する」と述べた。

佐沼病院は登米市に5つある市立病院の中心で登米医療圏の中核病院。2004年度の延べ患者数は、小児科の入院が5218人、外来は1万6777人。産婦人科の入院は8757人、外来は1万3664人。

2006年02月15日水曜日